

# 株式会社アーレスティ

## 2012年3月期 決算説明資料



2012年5月21日

本資料および本説明会で述べられた内容には、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成した将来の見通しが含まれておりますが、様々な要因により、実際の業績はこれらの見通しと異なる場合があります。

### 特別損失(製品保証費用)について

2012年2月9日公表

製品保証費用として第3四半期に1,504百万円を  
特別損失に計上

2012年4月23日公表

当該費用をおよそ5億円に修正

製品不具合の対策

同一事象による他製品への影響確認→問題なし  
不具合の根本原因を対策済(標準類の見直し等)

# タイの状況

タイアーレスティダイ(アユタヤ ハイテク工業団地:金型製造)は、2011年10月中旬から最高で2mほど浸水したが、2011年末頃には水が引き、2012年3月に操業を再開した。

この浸水被害による損害として機械の除却、修理等の費用として2億円を特別損失として計上(2011年10月17日公表)



タイアーレスティダイ外観



工場内部(マシニングセンター) 2012年5月時点

# ご説明内容

## TOPICS

- I. 2012年3月期決算概況
- II. 今期見通し
- III. 今後の方向性

# TOPICS

## ■2011年

9月 広州アーレスティ隣接地使用権取得契約締結

10月 東海工場第3铸造工場完成

11月 合肥アーレスティ開業式開催



合肥アーレスティ開業式

## ■2012年

1月 ダイモールド広州第2期拡張工事完了



ダイモールド広州第2期工事完了

2月 ダイモールド広州がものづくり日本大賞優秀賞受賞

3月 アーレスティメヒカーナ工場拡張工事着工

5月 広州アーレスティ隣接地への工場建設着工



広州アーレスティ隣接地の工場完成予想図

## 東海工場統合の進捗

### 移管完了後の旧浜松工場跡地譲渡先が決定

譲渡先： 株式会社フィールコーポレーション

事業内容： 食品スーパーマーケットチェーン

譲渡価格： 28億円

引渡し予定日： 2013年8月31日

※本物件の固定資産譲渡益は、2014年3月期の特別利益に計上予定

#### 【ご参考】東海工場移管完了後の铸造能力計画

	建屋面積	溶解炉	DCマシン	月産铸造能力
浜松工場 (2010年計画発表時点)	22,991m <sup>2</sup>	9基	33台	2,500t
豊橋工場 (2010年計画発表時点)	31,118m <sup>2</sup>	5基	37台	2,100t
東海工場 (2013年3月予定)	32,515m <sup>2</sup>	6基(3)	40台(15)	3,300t

( )は、浜松工場からの移設分

# I. 2012年3月期決算概況



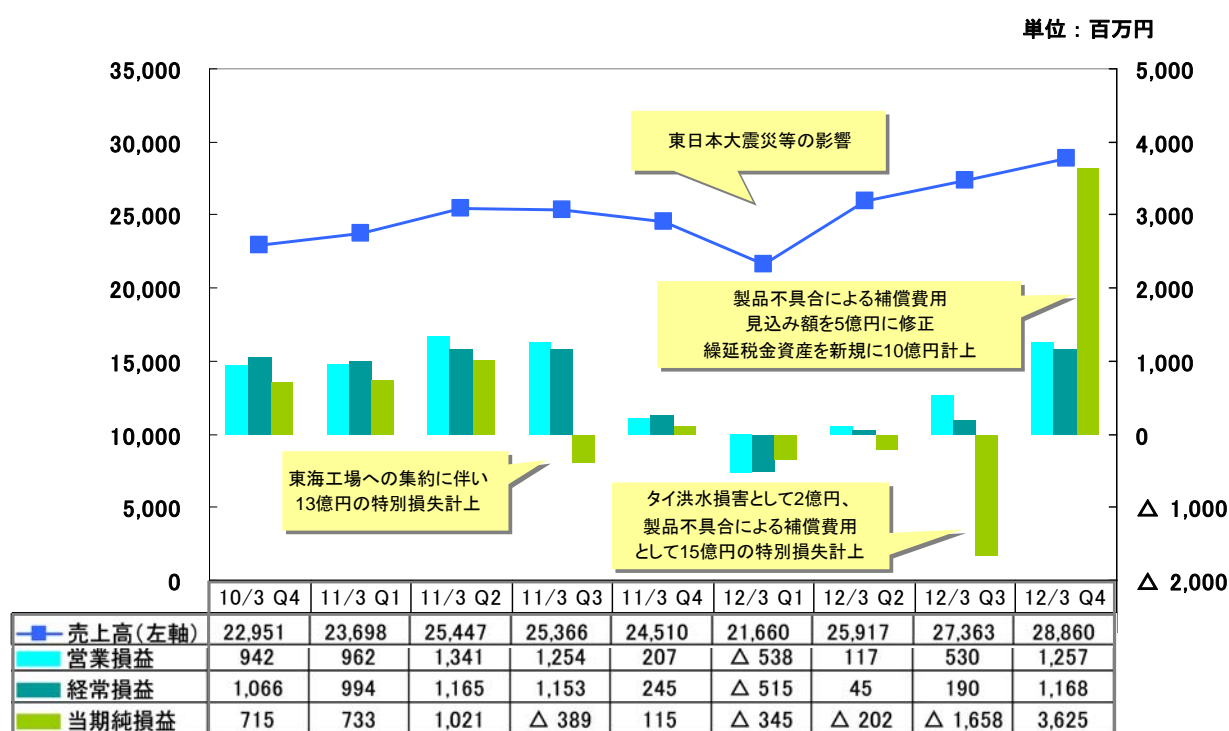
## 2012年3月期決算のポイント

(単位:百万円)

	2011年3月期		2012年3月期		前期比
売上高	99,022	100%	103,800	100%	+4.8%
売上総利益	13,241	13.4%	11,074	10.7%	△16.4%
営業利益	3,765	3.8%	1,366	1.3%	△63.7%
経常利益	3,557	3.6%	888	0.9%	△75.0%
当期純利益	1,481	1.5%	1,420	1.4%	△4.2%
EPS	68.80		65.87		△4.3%

- ◆ 売上高1038億円、営業利益13億円 前期比では増収減益となった。
- ◆ 売上高: 東日本大震災およびタイ洪水の影響により、国内は横ばい、アメリカは微増に留まるも、メキシコ、中国で販売量を伸ばし連結では前期比4.8%増。
- ◆ 営業利益: 通期での販売量は増加したものの、上期の受注減による収益への影響の挽回には至らず、また、メキシコの増産対応遅れ挽回費用の発生および中国第2拠点(合肥)への先行投資、インドの黒字化の遅れにより営業利益は13億円留まった。

# 連結決算概要(四半期別)



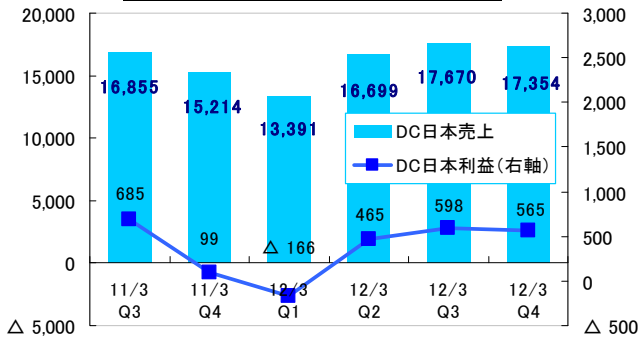
# ダイカスト事業

(単位：百万円)

		2011年3月期	2012年3月期	増減	
日本	売上	65,624 100%	65,114 100%	△510	△0.8%
	セグメント損益	1,929 2.9%	1,463 2.2%	△466	△24.1%
北米	売上	16,020 100%	18,761 100%	2,741	17.1%
	セグメント損益	1,029 6.4%	314 1.7%	△715	△69.4%
アジア	売上	11,666 100%	13,723 100%	2,057	17.6%
	セグメント利益	723 6.1%	△504 △3.7%	△1,227	△169.7%

# ダイカスト日本

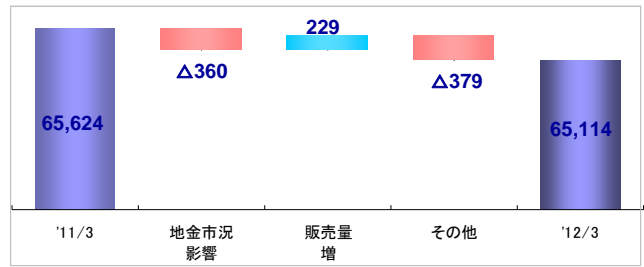
ダイカスト日本売上高／営業利益の推移



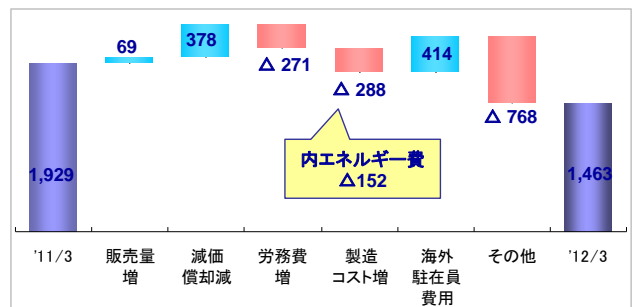
震災影響は挽回し、販売量は前期比で微増となるも、地金影響を受け、若干の減収。

セグメント損益は、震災時の急激な販売量の減少による影響が大きく73.9%減少。

売上高増減要因 (百万円)

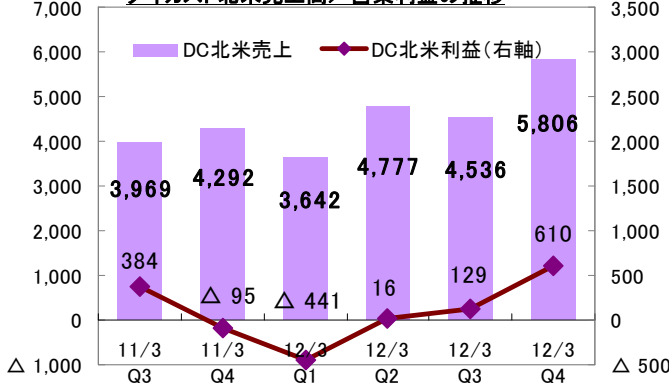


セグメント損益増減要因 (百万円)



# ダイカスト北米

ダイカスト北米売上高／営業利益の推移



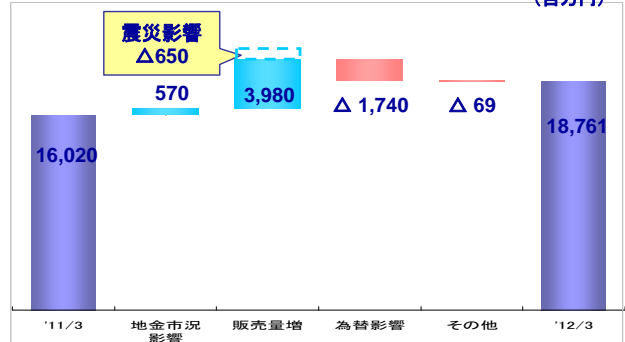
アメリカ: 震災の影響およびタイ洪水の影響により、増収減益となったものの一定の利益水準を維持。

メキシコ: 受注拡大により売上高は増加するも、利益面では、増産対応遅れを挽回するための費用が発生し、2010年4Qから収益性が大きく悪化。2011年2Qより回復に向かい、2011年4Qは黒字化。

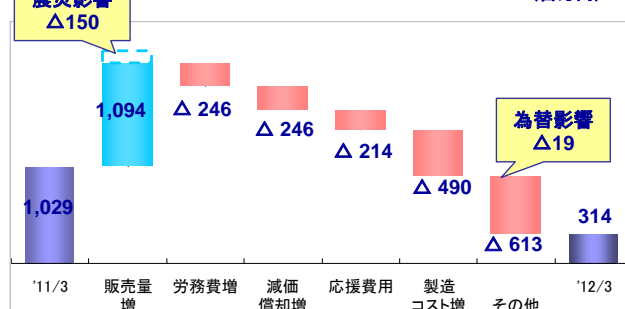
※アメリカ 4-3月  
メキシコ 1-12月

平均レート  
米\$ 85.81→79.14  
メ\$ (米\$) 87.68→79.61

売上高増減要因 (百万円)

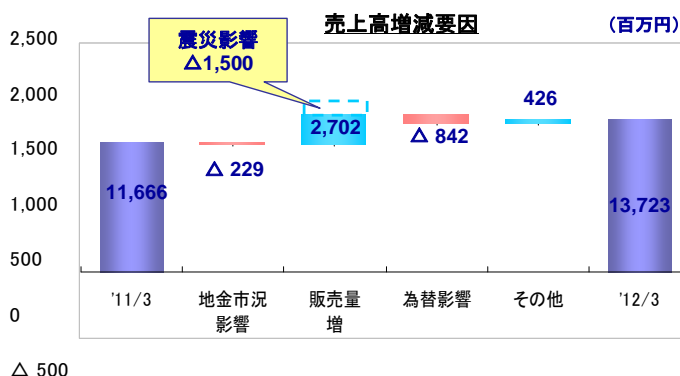
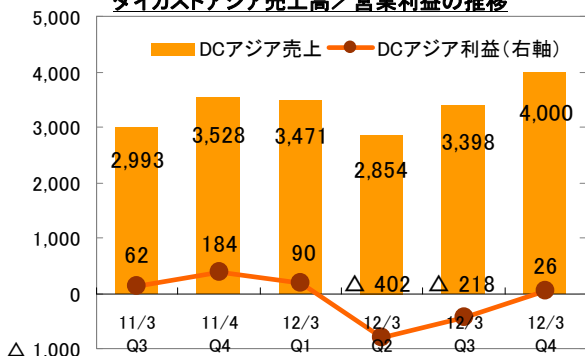


セグメント損益増減要因 (百万円)



# ダイカストアジア

ダイカストアジア売上高／営業利益の推移



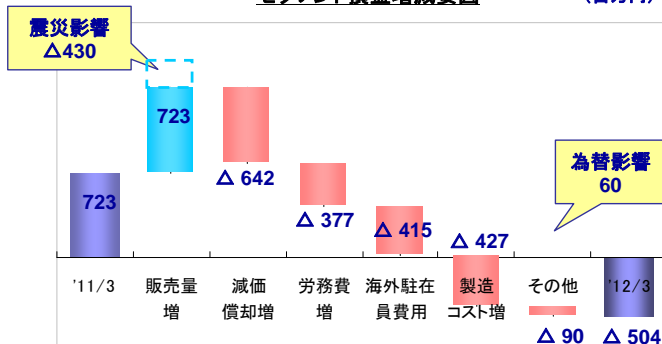
中国：震災の影響により一時的に販売量が落ち込むも旺盛な需要に支えられ、売上高は増加している。収益面では、震災影響による急激な販売量の減少および第2拠点(合肥)の影響により収益性が悪化したものの回復しつつある。

インド：受注は増加しているものの、先行投資による固定費負担が重く、さらなる売上高の拡大が課題。

※中国1-12月  
インド4-3月

平均レート  
人民元 12.95→12.31  
インドルピー 1.89→1.67

セグメント損益増減要因



# アルミニウム事業および完成品事業

(単位：百万円)

		2011年3月期	2012年3月期	前期比
アルミニウム事業	売上	3,524 100%	3,744 100%	+6.3%
	営業利益	△13 △0.4%	△42 △1.1%	-
完成品事業	売上	2,186 100%	2,455 100%	+12.3%
	営業利益	84 3.8%	72 2.9%	△14.3%

アルミニウム事業：震災影響による上期の減収を下期で挽回するも、円高及び市況影響による販売価格の低迷により若干の赤字拡大となった。

完成品事業：半導体関連企業の新築・リニューアル物件やデータセンター向け物件等の受注増により、売上高は12.3%（前期比）増加するも、競争激化による販売価格の低下により、利益は14.3%減少した。



# 貸借対照表

(単位：百万円)

	2011年3月期	2012年3月期	増減
流動資産	40,530	44,486	3,956
現預金	9,179	7,358	△1,821
売上債権	20,254	24,541	4,287
棚卸資産	9,162	8,636	△526
固定資産	53,268	60,721	7,453
有形固定資産	46,284	54,135	7,851
資産合計	93,799	105,208	11,409
負債合計	59,391	69,794	10,403
買入債務	18,571	18,653	82
長短借入金	25,850	33,348	7,498
純資産合計	34,407	35,414	1,007

◆ 海外での拡大投資のため、有形固定資産および借入金が増加。

# 配当の状況

(単位：円)

	09年3月期	10年3月期	11年3月期	12年3月期	13年3月期 予想
1株当たり配当金					
(年間)	11	5	12	6	12
中間配当	11	-	6	3	6
期末配当	-	5	6	3	6
一株当たり純損益(連結)	△ 313.8	△ 2.8	68.8	65.9	111.3
配当性向(連結)	-	-	17.4%	9.1%	10.8%

◆ 配当性向には配慮しつつも、今後の成長を勘案した経営資源の配分を推進



## II. 2013年3月期見通し



### 2013年3月期業績予想

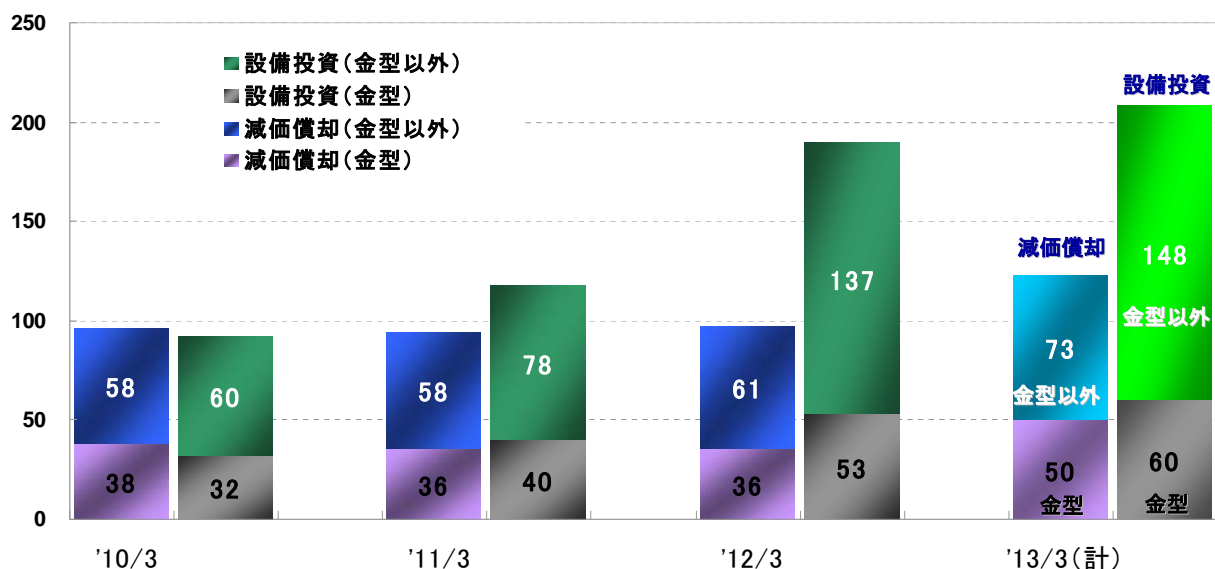
(単位:百万円)

	2012年3月期 (実績)	2013年3月期 (計画)	増減	増減率
<b>売上高</b>	103,800	112,500	8,700	8.4%
ダイカスト日本	65,114	63,500	△1,614	△2.5%
ダイカスト北米	18,761	21,500	2,739	14.6%
ダイカストアジア	13,723	21,000	7,277	53.0%
アルミニウム	3,744	4,000	256	6.8%
完成品	2,455	2,500	45	1.8%
<b>営業利益</b>	1,366	3,750	2,384	174.5%
ダイカスト日本	1,463	1,900	437	29.9%
ダイカスト北米	314	1,250	936	298.1%
ダイカストアジア	△504	450	954	—
アルミニウム	△42	100	142	—
完成品	72	50	△22	△30.6%
消去または全社	62	0	△62	△100.0%
<b>経常利益</b>	888	3,350	2,462	277.3%
<b>当期純利益</b>	1,420	2,400	980	69.0%

# 設備投資・減価償却の動向

(億円)

※検収ベース



## III. 今後の方向性



## 今後の方向性

### 当社を取り巻く環境

- ▶ 世界自動車需要は新興国を牽引役として右肩上がりに成長
  - ▶ 2020年には9,000万台～1億台になると予想
  - ▶ HEV、PHEV、EVは新車販売の20%へ拡大
  - ▶ メインストリームは依然、既存エンジン車と予想される
- ▶ 国内自動車生産は中長期的には減少が予想される

### 足下の課題

- ▶ インド子会社の赤字体質からの脱却
- ▶ 東海工場の集約に伴う一時的な収益性の悪化の改善

## 今後の方向性

～2013/3月期

品質を中心においたものづくりの基盤強化

2014/3月期～

更なる飛躍に向け、成長戦略へ舵を切る

# 今後の方向性

～2013/3月期 品質を中心においたものづくりの基盤強化

➤ 1012中期計画(2011/3～2013/3)の仕上げ

## 2013年からの飛躍のための品質を中心においた基盤強化

		取り組み
1	ものづくりの基盤強化	管理技術・固有技術を高める施策展開 品質不具合の真因追究による源流対策
2	プロフェッショナル人材の育成	品質教育を始めとした部門別能力クラス別専門教育の再構築と実施 マネジメント・エキスパートの育成 アーレスティウェイの浸透
3	グローバル経営システムの構築と展開と周知	グローバル業務標準、技術標準の整備と周知
4	リスクマネジメント	BCM(事業継続マネジメント) BCP(事業継続計画)

# 今後の方向性

2014/3月期～

更なる飛躍に向け、成長戦略へ舵を切る

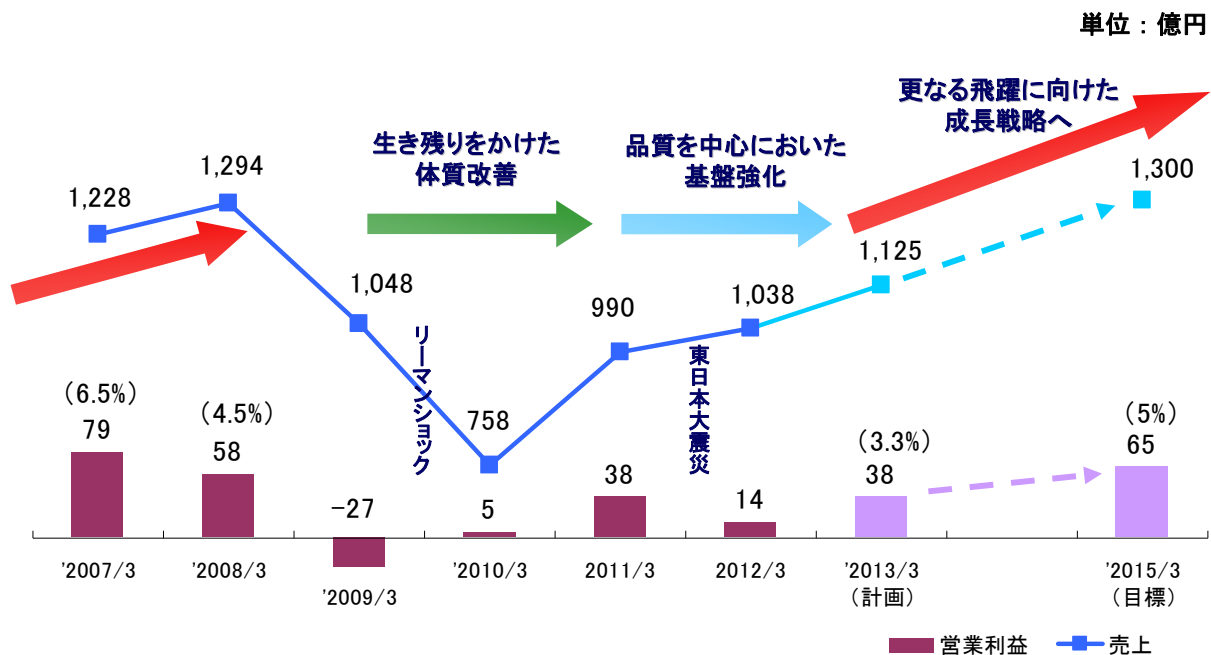
- 新興国を中心とした販売拡大(早期に海外売上高比率を50%以上に)
  - 既存海外拠点の生産能力拡充  
(今後3年間で海外を中心に累計350～400億円程度(金型を除く)の設備投資)
- 新規海外拠点の設立検討
  - 自動車生産増が期待される地域への進出
- 生産性向上、競争力強化(1012中期計画の基盤強化をベースに)
  - リーンな設備で生産性向上し、競争力を強化するとともに収益性を向上

# 今後の方向性

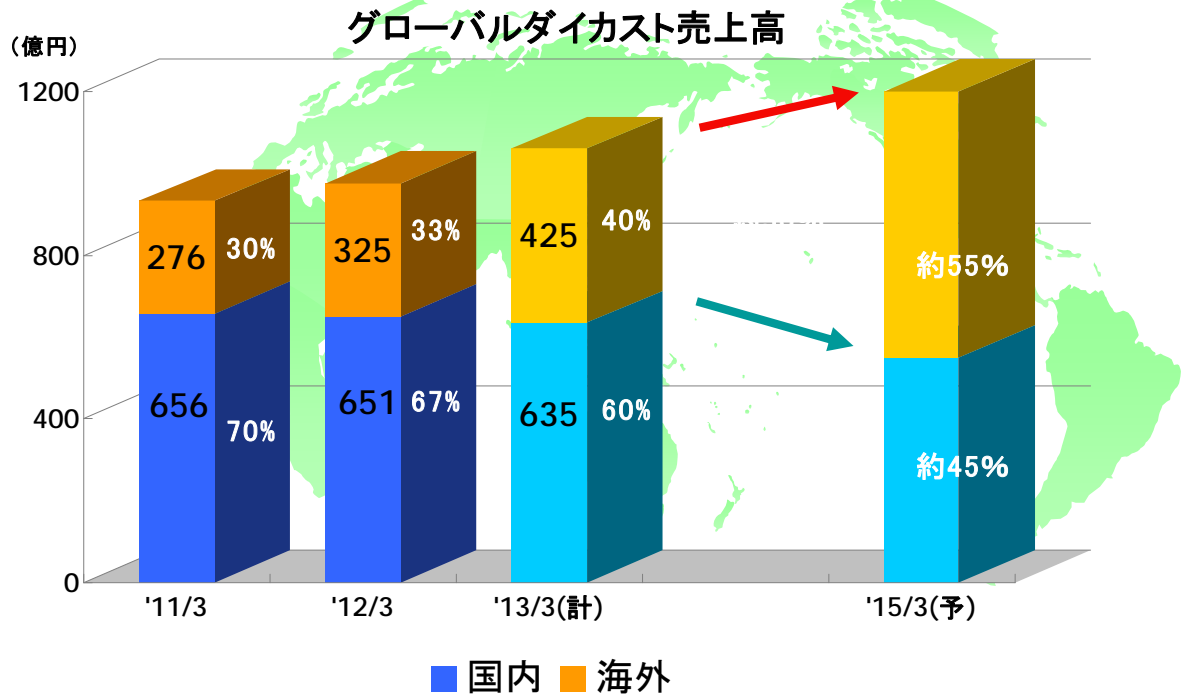
	従来目標値 (2013/3月期)	見通し (2013/3月期)	新たな目標値 (2015/3月期)
連結売上高	1,100億円	1,125億円	1,300億円
売上高営業利益率	4%	3.3%	5%
総資産純利益率 (ROA)	3%	2.2%	4%
株主資本当期純利益率 (ROE)	8%	6.5%	8%

- ✓従来目標の売上高は達成できる見通しであるものの、残念ながら他の目標達成は厳しい。
- ✓2014/3月期以降の飛躍に向けて、2013/3月期は1012中期計画の基盤強化の仕上げ。新たな目標を設定。

# 今後の方向性



# 今後の方向性



Casting Our Eyes  
on the Future

## 株式会社アーレスティ

研究開発・サービス・技術のリーダーを目指して



【本資料及び当社IRに関するお問合せ先】

株式会社アーレスティ 経営企画部 経営企画課 TEL 03-5332-6004

E-mail: ahresty\_MP0\_IR@ahresty.co.jp

URL: <http://www.ahresty.co.jp>

本資料および本説明会で述べられた内容には、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成した将来の見通しが含まれておりますが、様々な要因により、実際の業績はこれらの見通しと異なる場合があります。